小・中学校

平　成　7　年　度

教育研究員研究報告書

へき地教育

東京都教育委員会

平成７年度

教育研究員名簿

市町村名	学校名	氏名
青梅	第6小学校	白沢弦雄
青梅	第7小学校	中村章司
青梅	今井小学校	原紳司
青梅	若草小学校	小澤裕子
青梅	霞台中学校	尾暮亮
檜原	檜原小学校	◎ 島崎秀朗
檜原	檜原小学校数馬分校	竹西宗晴
奥多摩	小河内中学校	○ 熊井重彰
新島	新島中学校	大島義明
御蔵島	御蔵島小学校	広瀬節良
八丈	末吉中学校	沖山美智子

◎ 全体世話人

○ 副世話人

担当

東京都多摩教育事務所西多摩支所　指導主事　横山正彦

同上　中村馨

目　　次

Ⅰ　研究主題設定の理由 …… 1
Ⅱ　研究のねらい …… 2
Ⅲ　研究の仮説 …… 2
Ⅳ　研究の全体構想 …… 3
Ⅴ　研究の内容 …… 4
検証事例・その１　学区域での野外調査を通して，一人一人の生徒が主体的に課題に取り組む指導の工夫
・中学校第１学年社会「地域を知ろう」 …… 4
検証事例・その２　買い物における調査や実績を通して，一人一人の児童が自ら学ぶ力を育てる指導の工夫
・小学校第６学年家庭「くらしと買い物」 …… 8
検証事例・その３　ビデオレターや語り部の話を活用することにより，自らの課題に主体的に取り組む指導の工夫
・小学校第２学年国語「かさこじぞう」（檜原村に伝わる民話） … 12
検証事例・その４　地域の開発に尽くした先人の学習を通して，一人一人の児童が地域に目を向け，考える力を育てる指導の工夫
・小学校第４学年社会「郷土を開く」 …… 16
検証事例・その５　新島の砂浜の砂などを観察する体験的な活動を通して，地域の自然に関心をもち，自ら学ぶ力を育てる指導の工夫
・中学校第３学年理科「火をふく大地」 …… 20
Ⅵ　研究の成果と課題 …… 24

研究主題　体験的な活動を生かし，一人一人の児童・生徒が自ら学ぶ力を育てる指導の工夫

Ⅰ　研究主題設定の理由

1　地域の特性と児童・生徒の実態

へき地と一口に言っても，都市化により地域が変容し，生活に便利な所もあり，逆に豊かな自然と環境に恵まれてはいるが，地形的に恵まれず交通の不便な所もある。一般に，へき地に住む児童・生徒も直接体験が不十分な実態がある。

学力向上の気運はありながらも，取り組む姿勢は消極的・受動的な面が多く，発表力や表現力に欠けるという面がある。また，へき地の児童・生徒は意外に豊かな地域の自然や歴史，文化遺産について知らないことが目立つ。その原因として考えられることは，保護者もその地に長く住んでいる人が少なくなり，それらが子供たちに伝わりにくくなっていることが挙げられる。

2　体験的な活動を生かし，意欲をもって学ぶ態度を育てる。

児童・生徒の発達段階にあわせ，体験的な活動を重視した学習内容を工夫・改善し，授業で学んだことをもとに「やってみて，考える」ことのできる手だてが必要である。その工夫として，学校外での学習の場を移し，人とのかかわりや社会との接点をもち，児童・生徒の学習意欲を喚起することが大切である。

3　自ら学ぶ意欲を育て，課題を解決していく能力を育てる。

生涯を通して，生き方を考え，学び続ける力を身に付けるには，自分で課題や問題点を探り出し，その解決のための方法を身に付け，それを実践する「学び方」についての指導の工夫が必要である。課題を解決した時の楽しさや成就感を体得させることは，次の課題に挑戦する力を生む。また，人とのかかわり合いの中では，自分の思うようにはいかないこともあることを知り，失敗してもやり直す意欲を養い，自ら成長する喜びを体験することも大切である。

4　地域教材を活用し，へき地・小規模校の特性を生かした指導法の工夫をする。

地域の文化や歴史を教材化し活用するには，地域の産業や諸事業に活躍している人の協力を得た事業を展開することが効果的である。また，このような時をとらえ少人数学級の特性を生かして，児童・生徒一人一人の感じ方や考え方を引き出すことも重要である。

以上のことから本部会の主題を設定した。

Ⅱ　研究のねらい

本研究のねらいは児童・生徒の学習に対する興味・関心さらには意欲を高める工夫をし，課題意識をもって，課題を解決していく態度・能力を育てることである。

Ⅲ　研究の仮説

児童・生徒一人一人が自ら学ぶ力を育てるため，本研究では以下の仮説を設定した。

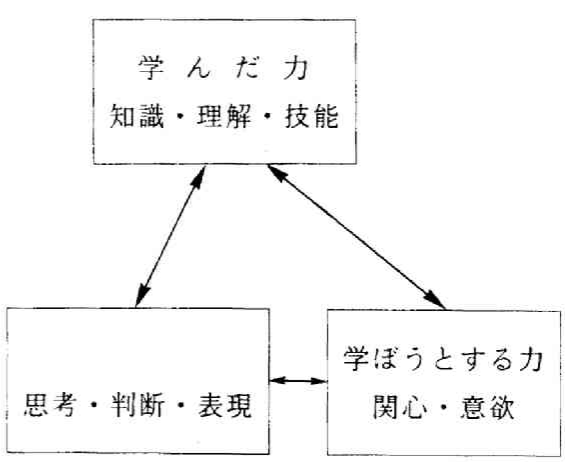
＜仮説Ａ＞地域素材や身近な教材を活用し，体験的な学習活動を展開することにより，児童・生徒の興味・関心も増し，自ら進んで学ぼうとする意欲が高まるであろう。

＜仮説Ｂ＞主体的に課題に取り組む学習活動を工夫し，児童・生徒が自ら課題を解決することにより，成就感が得られ，自ら学ぶ力が養われるであろう。

右の図の三角形のように「学んだ力」（知識・理解・技能）・「学ぼうとする力」（関心・意欲・態度）・「学ぶ力」（思考・判断・表現）が相互に働いていると考える。

関心・意欲などの情意面＜仮説１＞と知識・理解・技能・思考力・判断力などの認知面＜仮説２＞の両方を育て，評価していくことが大切である。

本部会ではこの仮説を授業の中で取り組むことはもとより，大きく単元全体でとらえて検証することにした。



Ⅳ　研究の全体構想

学校教育のねらい

①心豊かな人間の育成　③基礎・基本の重視と個性を生かす教育の推進
②自己教育力の育成　④文化と伝統の尊重と国際理解の推進

地域の特性
＊伝統的文化の継承
＊豊かな自然環境
＊過疎化，都市化による地域の変容
＊交通が不便
＊地域と学校との結びつきが強い

保護者の願い
＊豊かな人間関係
＊楽しい学校生活
＊確かな学力
＊健康で安全な生活

児童生徒の実態
＊素直・純朴・穏和
＊異学年間の密接な関係
＊自然に触れる機会が少なくなってきている
＊人間関係が親密である
＊与えられた課題には，まじめに取り組む

指導の実態
＊きめ細かな児童・生徒理解
＊豊富な地域素材
＊集団的活動が比較的困難
＊主体的な活動を促す指導の必要性

目指す児童・生徒像

①自ら学ぶ意欲と進んで学習する態度を身に付けた児童・生徒
②地域の自然や文化に誇りをもち，大切にする児童・生徒

平成７年度研究主題

体験的な活動を生かし，一人一人の児童・生徒が自ら学ぶ力を育てる指導の工夫

研究のねらい

興味・関心を高め，課題解決していく態度・能力を育てる。

研究の仮説Ａ

地域素材や身近な素材を活用し，体験的な学習活動を展開することにより，児童・生徒の興味・関心も増し，自ら進んで学ぼうとする意欲が高まるであろう。

研究の仮説Ｂ

主体的に課題に取り組む学習活動を工夫し，児童・生徒が自ら課題を解決することにより，成就感が得られ，自ら学ぶ力が養われるであろう。

検証事例

①　中１　社会	②　小６　家庭科	③　小２　国語	④　小４　社会	⑤　中３　理科
学区域での野外調査を通して，一人一人の生徒が主体的に課題に取り組む指導の工夫 「地域を知ろう」	買い物における調査や実践を通して，一人一人の児童が自ら学ぶ力を育てる指導の工夫 「くらしと買い物」	ビデオレターや語り部の話を活用することにより，自らの課題に主体的に取り組む指導の工夫 民話 「かさこじぞう」（檜原村に伝わる民話）	地域の開発につくした先人の学習を通して，一人一人の児童が地域に目を向け，考える力を育てる指導の工夫 「郷土を開く」	新島の砂浜の砂等を観察する体験的な活動を通して，地域の自然に関心をもち，自ら学ぶ力を育てる指導の工夫 「火をふく大地」

＊授業の分析と評価を通した仮説の検証
＊研究のまとめと今後の課題

Ⅴ　研究の内容

＜検証事例・その１＞

1　事例名　学区域での野外調査を通して，

―人一人の生徒が主体的に課題に取り組む指導の工夫

中学校　第１学年　社会

2　単元名と目標

(1)　単元名　《地理》　第２章　身近な地域

小単元　「野外調査の準備とまとめ」

～小河内中学校の学区域を中心とした身近なな地域～

(2)　ねらい

ア　観察・調査のねらい，手順，まとめ方を理解させ，地域を調査する方法を身に付けさせると同時に，主体的に学習する態度を育てる。

イ　観察・調査した内容をまとめさせ，発表できるようにする。

ウ　身近な地域を新たな観点から見直し，その理解を深めさせるとともに，身近な地域を愛する心を育て，地域社会の構成員としての自覚を高める。

3　単元を通した授業仮説

(1)　仮説Ａ…地図に親しみ，読図能力を高めた上で身近な地域を対象に野外調査を行う。この野外調査では観察や聞き取り活動等体験的な学習活動を重視し，その結果を発表させる。

これらの学習を通して，生徒は身近な地域に対して興味・関心・理解を深め，自ら進んで学ぼうとする意欲が高まるであろう。

(2)　仮説Ｂ…身近な地域に対して，学習意欲を高めた上で自ら課題を設定して野外調査を行い，自分の方法で課題解決を図る。

これらの学習を通して，生徒は課題解決に迫り，成就感を得ることにより自ら学ぶ力が養われるであろう。

4　地域の様子

豊かな自然と美しい環境に恵まれる地域である。本校は標高５５０ｍの山地の斜面に位置し，平地が少なく地形的には恵まれていない。また交通の便はよくない。

ダム建設に伴う学校移転・住宅移転の歴史を刻んだ地域であり，郷土資料館には，水没した小河内地域の山村生活用具など国指定の文化財が多く展示されている。「花神楽」「車人形」「獅子舞」などの郷土芸能が盛んであり，その継承に係わっている生徒もいる。

5　生徒の実態

生徒は純朴，素直であり，保護者の学校教育に対する期待は大きく非常に協力的である。交通が不便なこともあり，生徒は卒業後親元を離れて暮らすことが多い。したがって保護者の生徒に対する自主・自立への期待は大きい。

生徒は与えられた課題に対してはまじめに取り組むが，主体的に物事に取り組む姿勢は弱く，発表力・表現力に欠ける面が見られる。

地域の自然や歴史，また自分の家の歴史について，意外と知らないことが多いことから，

学校行事においては体験的な学習を重視し，人々との関わり，自然との関わり，地域社会との連携を深めている。

6　教師の願い

(1)　豊かな自然との関わりの中から多くのものを学習させたい。

(2)　広く地域社会と関わり，体験的な学習を経験させ，社会性を身に付けさせたい。

(3)　一人一人が発表できる機会を重視し，個を生かした表現能力を向上させたい。

(4)　地域に残る文化遺産との関わりや古老を含む地域の人々との聞き取り活動を重視して，伝統的文化の継承について理解を深めさせたい。

(5)　自ら課題を設定し，試行錯誤を経験しつつ，発達段階に応じた成果・結論を得るというプロセスを通して，自主的・自立的な学習経験を深めさせたい。

(6)　長期休業日や土曜休業日によって増える生徒の自由時間の過ごし方については，家庭や地域の活動に積極的に参加させ，あわせて地場産業の体験などにより，郷土の自然や芸能を知り，郷土を愛する心を育てたい。

7　単元学習指導計画における仮説と評価

各プロセス	単元指導計画	各プロセスにおける仮説	評価のおもな観点
No.1（1時間） 地域調査に役立つ地図	●目的にあった地図を探す。 ●地図のきまりを調べる。 →　生徒の既成知識・理解の確認，興味・関心の喚起	仮説A	関心・意欲 知識・理解
No.2（1時間） 地形図の読み方	●地形図をもとに学校周辺・町の様子を調べる。 ●新旧の地形図を比較する。 →　興味・関心の喚起	仮説A	関心 知識・理解
No.3（4時間） 野外調査の準備とまとめ	a　課題設定・班編成・調査方法 →　課題意識をもたせる	仮説A・仮説B	関心・意欲
	b　野外調査の実施（課外授業） →　課題の追求・解決	仮説A・仮説B	関心・意欲 思考力・判断力
	c　調査の報告・調査のまとめ →　課題の追求・解決	仮説B	学び方 思考力・判断力
	d　発表の準備 →　課題の追求・解決	仮説B	学び方，技能 思考力・判断力
	e　野外調査の発表・まとめ →　課題（学習）の発展 （本時）	仮説A・仮説B	学び方，技能・表現，知識・理解 思考力・判断力 意欲

8　本時の指導案

(1)　本時の位置

プロセス№3（4時間扱い）「野外調査の準備とまとめ」の4時間目

(2)　本時の目標

ア　課題に対して，地域の特色を多面的にとらえた発表を行い，資料・図表などを使って分かりやすく発表する能力を培う。

イ　発表や質疑応答などの学習活動を展開し，身近な地域に対する興味・関心を高め，自ら進んで学ぼうとする意欲を高める。

ウ　課題に対して，各班の発表を聞くとともに自班の調査結果と比較し関連させるなどの主体的な学習活動を通して，身近な地域に対する理解を一層深めさせる。同時に，課題解決に迫ることにより成就感を得させる。

(3)　本時の授業仮説

観察や調査活動の結果を整理して発表する。その内容として歴史的分野の指導との関連を考慮し，小河内ダムの歴史や地域に残る文化財・伝統行事についても含めて発表させるようにする。

生徒が何気なく日常生活を送っている身近な地域を対象に，一人一人の興味・関心をもとに，学習課題を見いだし，自らその課題解決に迫ることにより，学ぶ意欲が高まり，また，成就感が得られれば，それは学ぶ力となるであろう。

さらに，生徒の地域理解やその見直しは，「地域の自然や文化に誇りをもち，大切にする生徒」の育成につながるであろう。

(4)　本時の展開

第1学年　男子4名　女子3名　計7名

指導内容	学習活動	教師の支援及び指導上の留意点（＊）　評価の観点（＃）
1　発表の仕方・聞き方 （3分）	◎教師から発表の仕方と発表を聞く際の心構えを聞く。	＊各班の発表をしっかり聞き，自分の班の調査結果と比較することの大切さを強調する。 ＊分かりやすく，堂々と発表するように励ます。
2　各班の発表 （30分）	◎発表する。 ◎各班の発表を評価して，個人カードに記入する。	＊発表の手順は事前に必要な範囲で援助しておく。 ＊各班の発表をビデオで補う。 ＊各班の発表と自班の関連をさがすよう喚起する。 ＊発表のよい点を評価する。 ＃資料の活用法，表現

比較検討	◎発表に対しての質問や疑問をまとめる。 ◎自分の班の調査結果と比較検討する。	＊できるだけ自分の班の調査結果に基づいた発言をするようにうながす。 ＃思考力・判断力
質疑応答・意見交換	◎質問や意見を述べる。 ◎質問に応える。	＊質疑に応答できたことを認め，ほめる。 ＃表現，思考力・判断力
3　地域の再発見 （12分）	◎各班の発表を聞いて，新たに分かったことや自分の班の発表の反省点をまとめる。	＊自分の班との関連を中心にまとめるよう示唆する。 ＊新発見や反省点のよい点をほめる。 ＊各班の発表の関連について指摘する。
	◎新しい発見や反省点を発表する。	＊これまで学習した調査方法やまとめ方・発表の方法を，今後の学習に生かすように指導する。
	◎教師のまとめを聞く。	＃知識・理解，思考力・判断力表現
4　地域調査のまとめ （5分）	◎感想文を書き，自己評価カードを記入する。	＃関心・意欲

(5)　成果と課題

生徒は自己評価カードの中に，「授業がとても楽しかった…3，楽しかった…3」とあるように意欲や関心の高まりを示しており，また，全員が「身近な地域について，今まで知らなかった新しい発見がありました。」と，地域の再発見について高く評価している。

一方では，自分の班の発表（分かりやすさ・質問に対する回答など）については，「不十分だった…2」とも答えている。

今後の課題としては，模造紙による作品提示を中心とした発表を，個々の生徒の創意に応じたビデオ・実物投影機・プリントなどを活用して，多様な発表スタイルに発展させていくことや，各自の学習課題設定の動機についても発表させたり，野外学習を終えての感想を発表させたりするなど，教師の支援の在り方を工夫する必要がある。

本時の授業を最終時とする「身近な地域」の学習を終えて，生徒は，身近な地域に対しての関心を深め，自ら進んで学ぼうとする意欲が高まったと思われる。また，自ら設定した課題の解決に迫ることにより一定の成就感を得たと思われる。以上のことは，新たな学習課題への挑戦につながるであろう。

＜検証事例・その２＞

1　事例名　買い物における調査や実践を通して，

一人一人の児童が自ら学ぶ力を育てる指導の工夫

小学校　第６学年　家庭

2　単元名と単元の目標

(1)　単元名　「くらしと買い物」

(2)　単元の目標

ア　物を買う場合には，目的を考え，計画的に買うことが大切であることが分かる。

イ　品質表示や各種マークの意味を知り，適切な品物が選べる。

ウ　商品の見分け方を知り，品質の良いものを選ぼうとする態度を身に付ける。

3　単元を通した授業仮説

(1)　仮説Ａ

自分の住む地域における買い物について調査や実体験を通した学習を展開することにより，地域の実態や自分たちの生活ぶりを認識し，物に対する価値観や物の質等，商品に関する知識や興味・関心が高まるであろう。また，よりよい物を選ぼうとする態度を培い，学習した知識・技能を実生活に生かしていこうという意欲につながるだろう。

(2)　仮説Ｂ

自分の生活における金銭の使い方調べや金銭収支表の作成，買い物カードの活用などの学習活動を工夫し，グループによる商品の選び方の考察や話し合いや品質表示・マーク調べなどの活動を展開することにより，よりよい物を選び，買うことができた喜びや実感を感じることができるであろう。そして，その成就感や達成感により，児童のよりよい買い物や生活向上についての自ら学ぶ力が養われるだろう。

4　地域の様子

市街化調整区域に指定されて十数年間，他地区からの転入など人的交流が少ないためか，独特の地域性があり，村落共同体としての特性をもっている。地域内には商店の数・種類が少なく，また点在している。大店舗・専門店は地域外に行かなければならないので，地域住民は，車やバスなどによる買い物が多い。

5　児童の実態

本学区は隣接する市街地と山で隔たった地域ではあるが，バスや車で比較的簡単に市街地に出ることができる。児童は買い物を比較的多く経験しており，買い物自体も好きである。買う物に関しても文房具やおやつ，ＣＤ，本・雑誌・マンガなど小遣い程度で買えるものの割合が多い。しかし，中には衣服を自分で買うなど，おしゃれに気を遣うようになってきた児童もいる。児童の約８割が地域内に店や品物の種類が少ないという点で不便さを感じている実態がある。買い物の経験が多く買い物によく出かける児童ほど不便さを感じる傾向が強いようである。

6　教師の願い

(1)　豊かな自然を大いに学習の中に取り入れていこうという実践だけでなく，マイナス的要素の日常生活上の不便さ，大変さを学習の中に取り入れていくことにより，自分たちの住む地域のことをよく知り，努力・工夫し，生活を豊かにしていこうという前向きな姿勢や態度を育てていきたい。

(2)　買い物という，日常的な内容の学習によって得た知識・技能を，積極的に日常生活で実践していける力を身に付けさせたい。

7　単元の学習指導計画における仮説と評価　7時間扱い

		学　習　活　動	評価の主な観点	仮説
第1次	第1時	◎日常生活における買い物についての話し合い ＊上手な買い物の仕方 ＊調べる商品のグループづくり （電気製品・既製服・加工食品 生鮮食品・文房具・家庭用品）	関心 思考力・判断力 意欲・協力	仮説A・仮説B
第2次	第1時	◎商品の買い方，選び方などに関する話し合い ＊買い方の工夫　＊選択の視点 ＊各種表示，マーク　等 ＜課題＞※家庭における調査	関心　知識・理解 資料活用力 思考力・判断力 意欲	
	第2時	◎調査，話し合いのまとめ ＊グループ内における，各家庭での調査報告・話し合い	知識・理解 思考力・判断力 資料活用・協力	
	第3時	◎グループ発表準備 ＊発表原稿 ＊資料づくり（プリント・具体物　等）	知識・理解　協力 資料活用力・表現 思考力・判断力	
第3次	第1時	◎学習発表①＜本時＞ （電気製品・既製服・加工食品） ＊グループによる発表　＊発表に関するまとめ	知識・理解 資料活用力 技能・表現 意欲・協力	
	第2時	◎学習発表② （生鮮食品・文房具・家庭用品） ＊グループによる発表　＊発表に関するまとめ		
第4次	第1時	◎買い物の計画を立てる ＊調理実習の材料の購入計画 ※実践は課外による	知識・理解 思考力・判断力 意欲・協力	

8　本時の学習指導

(1)　本時の位置　　第３次　　第１時＜学習発表①＞

(2)　本時の目標

ア　品質表示やマークの意味を知り，いろいろな商品の選び方が分かる。

イ　商品の選び方を知り，品質のよいものを選ぼうとする態度を身に付ける。

ウ　グループで協力し，分かりやすく発表することができる。

(3)　本時の授業仮説

家庭における調査や資料等により得た各種表示やマーク，選び方などの商品知識やグループの考え・意見を発表し，意見交換することにより，商品に対する価値観や理解を深めることになるであろう。また，このことは，今後の買い物の実践において，学んだことを生かしていこうという意欲・態度につながっていくであろう。

(4)ア　本時の展開

	学習活動	教師の支援・指導上の留意点	評価の項目
導入（5分）	(1)　発表の進め方の確認 ・順番 ・時間 (2)　発表準備 ・各グループ，発表の準備を行う	(1)・発表の進め方を確認するとともに発表を聞く側の態度や学習の方法も知らせる (2)・速やかに準備できるようあらかじめ準備するものをまとめておくようにする ・機器などは準備しておく	(1)・発表の進め方や聞き方が分かっている (2)・協力して，速やかに発表の準備をしている
展開（30分）	(3)　学習発表＜前半＞ ・各グループ持ち時間10分で発表を行う ・各グループの発表についての評価を学習カードに記録する 発表グループ ・電気製品グループ ・既製服グループ ・加工食品グループ 聞く側 ・各グループの発表内容について，学習カードに意見や	(3)・分担した物の選び方と比較対照しながら発表を聞くようにする ・各グループにできるだけ実物を用意させておき，それらを使って説明するようにする ・他のグループの発表を聞いている時は必要に応じて，メモするように促す ・各グループの発表についての評価を学習カードに記録していくようにする ・発表時間が短い場合は，補足説明や質問を行い，長くなった場合は，まとめやすくなるよう助言し調節する	(3)・聞き手に資料や実物などを提示しながら分かりやすく発表しようとしている ・グループ内で分担し協力して発表している ・調べたことや自分たちの考えなどを生き生きと発表している ・分からないことなどについて進んで質問しようとしている ・発表を聞いて，大切だと思うことをメモしている

	質問・発表における良い点を書く	・買い物の経験なども参考にするとよいことをおさえる	
まとめ（10分）	(4) 発表のまとめ ・発表内容や方法についての意見交換を行う ・発表内容の補足説明を聞く ・分かったことや気付いたこと，考えたことなどを学習カードに書く	(4)・各グループの発表で，良かった点を児童に挙げさせ，最後に総評・助言を行う ・商品を選ぶ時に，各種表示やマークを活用していく大切さに気付かせる ・学習を通して学んだ，買い物に対する考えや態度を中心に書かせるようにする	(4)・他のグループの発表について良い点に気付いている ・商品を選ぶときには各種表示やマークなど活用していく大切さに気付いている ・いろいろな商品の選び方について理解している

イ　次時の展開（学習発表②）

(1)　学習発表（生鮮食品・文房具・家庭用品の3グループ） (2)　発表のまとめ ※教師の支援・指導上の留意点・評価の項目は，前時と同じ。 (3)　次時の課題を知る（一食分の献立の材料の買い物の計画を立てる） ※今回学習した商品の選び方の知識を買い物に大いに活用するように促す。

(5)　成果と課題

ア　授業の評価と児童の変容

・自作プリントの作成や視聴覚機器を使った実物の提示など，各グループは工夫を凝らしながら多様な学習発表をすることができた。

・学習後，自分の持ち物や身の回りの物について，表示や各種マークの確認するなど物の品質に関して一歩踏み込んだ見方をもつようになった。

・買い物という個人的内容をもつ題材であったので，家庭における買い物調べなど，取り扱いが難しい点があった。

・もう少し買い物に関する地域の実態について調べ，多面的に考察させる学習活動を取り入れても良かった。

イ　今後の課題

・物が豊かな時代で比較的簡単に思い通りの物を手にいれることができる児童に，賢い消費者として商品知識を深めていくと同時に，物を大切にする心などの心情面も育てていくことも大切である。

・より良いものを消費するという立場からだけではなく，環境面や健康安全面等いろいろな視点から物を選んでいける力を育てていく必要がある。

＜検証事例・その３＞

１　事例名　ビデオレターや語り部の話を活用することにより，
自らの課題に主体的に取り組む指導の工夫

小学校　第２学年　国語

２　単元名と目標

(1)　単元名　民話「かさこじぞう」（檜原村に伝わる民話）

(2)　目　標

ア　民話の語り口の楽しさや登場人物の優しさが分かり，民話に対する興味をもつ。

イ　民話らしい語り口を意識して，感情をこめて音読する。

ウ　じいさまやばあさまの行為について，自分なりに感想を書くことができるようにする。

３　単元を通した授業仮説

(1)　仮説Ａ

ア　ビデオレターという体験的な活動を展開することにより，児童の関心・意欲も増し，自ら進んで詳しく読み取ろうとしたり，工夫して音読しようとしたりする意欲が高まるであろう。

イ　檜原村に伝わる民話という地域素材を活用し，地域の語り部から直接民話を聞くという体験的な学習活動を展開することにより，児童の関心・意欲も増し，自分が選んだ民話を詳しく読み取ろうとする意欲が高まるであろう。

(2)　仮説Ｂ

ア　工夫して音読することやビデオレターを活用して読みを深めるという課題に，主体的に取り組む学習活動を工夫し，児童が自分なりの工夫を取り入れて音読できるようになったり，いろいろな考えを取り入れながら読みを深めることができるようになったりすることにより，成就感が得られ，自ら学ぶ力が養われるであろう。

イ　檜原村に伝わる民話についての感想文を書くという課題に，主体的に取り組む学習活動を工夫し，児童が感想を十分に膨らませて，読む人によく伝わる感想文を書けるようになることにより，成就感が得られ，自ら学ぶ力が養われるであろう。

４　地域の様子

数馬分校は標高６８６ｍに位置し，豊かな自然に囲まれた学校である。全校児童は１７名，一人の学級もある。国語，算数，理科，社会は単一学年で授業を行うが，音楽，体育，生活科，家庭科などは複数学年が一緒に授業を行っている。特に，音楽と体育は全校児童が一緒に行う授業がある。学校の周りには民宿が多く，観光シーズンには多くの観光客がやってくるところである。

檜原村は，戦国時代の武田軍の子孫が隠れ住んだという言い伝えがある長い歴史をもつ村である。分校がある数馬地区も「兜作り」という古い家屋が今でも残っている。「かさこじぞう」のビデオ撮影の背景にも使用した。この村に伝わる数多くの民話を語り伝えている人物が檜原村在住の藤原ツジ子さんである。今回は「かさこじぞう」を学習した後の発展として，民話をいくつか話していただいた。

5　児童の実態

男子１名の授業が多く，興味・関心があることに時間をかけて取り組むことができたり，児童の個性やペースに合わせた授業が展開できるという利点がある。反面，周囲からの刺激や競争がなく，自己評価することがむずかしい。また，相談相手がいないので，自分の考えを深めにくいというところもある。

国語の学習に関しては，大きな声で音読することができ，練習に時間をかければ滑らかに音読することもできる。文章から要点や登場人物の気持ちを的確に読み取ることができるが，感想や意見を分かりやすく表現しきれていない。

6　教師の願い

(1)　新島小学校の児童と意見交換をしながら読みを深めることができるようになってほしい。

(2)　自分の感じたことを人に十分伝えられるような感想文を書けるようになってほしい。

(3)　民話らしい語り口を意識して音読できるようになってほしい。

(4)　檜原村に伝わる民話を通じて，地域に対する愛着が深まってほしい。

7　単元の学習指導計画における仮説と評価

	指　導　計　画	各段階における仮説	評　価　の　項　目
導入	①民話「かさこじぞう」の朗読テープを聞く。		
本文の取り扱い	②③④通読しながら，詳しく読み取りをしていく。	・ビデオレターの作成という体験的活動を取り入れることにより，詳しく読み取ろうとするだろう。	・詳しく読み取ろうという意欲が高まっている。
	⑤ビデオレターに感想を録画する。		
	⑥⑦⑧好きな場面を選び，音読の練習をする。	・ビデオレターの作成という体験的活動を取り入れることにより，工夫して音読しようとするだろう。	・自分なりの工夫を取り入れて音読しようという意欲が高まっている。 ・音読の練習に主体的に取り組んでいる。
	（本時）⑨ビデオレターに音読を録画する。 ※ビデオレターの交換	・音読の練習に主体的に取り組むことにより，音読を録画したときに成就感が得られるだろう。	・成就感を感じている。
	⑩⑪送られてきたビデオレターを見て，読みを深めたり，音読の工夫に気付いたりする。	・自分と違う読み取り方や音読の仕方を知ることにより，自ら学ぶ力が養われるであろう。	・他の児童とのやり取りを通じて，積極的に学んでいる。

発展	⑫語り部が伝承する檜原村の民話を聞く。 ⑬⑭⑮檜原村に伝わる民話を一つ選び，詳しく読み取りながら，感想文を書く。手紙として語り部の人に送る。	・檜原村に伝わる民話という地域素材に触れ，直接語り部から民話を聞くという体験的な学習活動を行うことにより，選んだ民話を詳しく読み取ろうとするだろう。 ・自分の感想を十分に膨らませて，分かりやすく書くことにより，手紙にして送ったときに成就感が得られるだろう。	・檜原村に伝わる民話に興味・関心をもっている。 ・選んだ民話を詳しく読み取ろうという意欲がある。 ・感想文を書くという課題に主体的に取り組んでいる。 ・手紙を送ったときに満足している。

8　本時の学習指導

(1)　本時の位置　9時間目（本文の取り扱いの8時間目）

(2)　本時の目標

ア　民話らしい語り口を意識して，自分なりの工夫を取り入れた音読をするようにする。

イ　音読の練習の成果を発揮し，録画した後で成就感を感ずることができるようにする。

(3)　本時の授業仮説

ア　ビデオレターという体験的な活動を展開したことにより，自分なりの工夫を取り入れて音読しようという意欲が高まるであろう。

イ　音読の練習に主体的に取り組んできたことにより，音読を録画して自分の思い通りにできたとき，成就感が得られるであろう。

(4)　本時の展開（児童数　男子1名）

	学　習　活　動	指導上の留意点	評　価　の　項　目
導入	○自分が練習してきた音読をテープで聞く。	・前回の練習まででよくなってきたところはどこかを聞く。	
	○自分が工夫してきたことを振り返る。	・どういう工夫をしているのかを聞く。	
展開	○音読の練習を録画する。	・本番のつもりで行う。	・自分なりの工夫を取り入れながら練習をしている。
	○再生して見る。	・感想を聞く。	
	○音読しているところをビデオレターに録画する。	・自信をもって音読できるように支援する。	・今までの練習の成果を発揮している。

	○再生して見る。	・満足いく内容だったかどうかを聞く。	
発展	○よかった場合は，自分の練習の成果を振り返る。	・成就感がもてるようにほめる。 ・ビデオレターの返事を待つ気持ちを高め，今後の学習への意欲を高める。	・成就感を感ずことができた。
	○納得がいかない場合は，どこに注意をすればよいか考えて，もう一度録画する。	・納得がいかない理由を聞き，再度の録画へ意欲が高まるように支援する。	・再度の録画で成就感をもつことができた。 ・改善への意欲をもって取り組んでいる。

(5) 成果と課題

ビデオレターという体験的な活動は，児童の関心・意欲を大いに引き出した。特に音読では，新島小学校の2年生が見ることをずいぶん意識して，意欲的に練習に取り組むことができた（仮説Aのア）。また，分校ではふだん聞くことができない同学年の児童の意見を聞くことができ，読みを深めるという課題にも主体的に取り組むことができた（仮説Bのア）。

檜原村の民話を語り部から直接聞くという体験的な活動により，民話への親しみが深まり，興味・関心も高まった（仮説Aのイ）。感想文を書くときには，手紙という形をとったことにより，感想を膨らませて，分かりやすく書こうとする姿勢が見られた（仮説Bのイ）。

今回の授業を通して，成就感は十分に得られた。今後の授業や生活の様々な場面で，例えば「新島小学校の子供だったら，どう考えるかなぁ。」という発想が出てくれば，それが自ら学ぶ力となっていくであろう。

今回は新島小学校の先生や児童に多大な協力をいただいてビデオレターの交換をすることができたが，児童がさらに成長していくためにはこのような実践を継続することが必要である。そのために，相手の学校とどのような協力体制を作っていけばよいのか，今後の課題として残っている。

＜検証事例・その４＞

1　事例名　地域の開発に尽くした先人の学習を通して，

―人一人の児童が地域に目を向け，考える力をつけるための指導の工夫

小学校　第４学年　社会

2　単元名と目標

(1)　単元名　「郷土を開く」－新町の開拓－

(2)　目標

自分たちが生活を営んでいる郷土・新町の開拓の様子を調べることにより，江戸初期，新町開拓の先頭にたった，吉野織部之助の計画的な村づくりの様子を理解し，自分たちと地域とのかかわりに気付き，郷土を愛する信条や地域社会の一員としての自覚を高めることができる。

3　単元を通した授業仮説

仮説Ａ：新町の開拓という地域素材を用い，聞き取り調査活動等の体験的な学習活動を展開することにより，児童の興味・関心が増し，自ら進んで学ぼうとする意欲が高まるであろう。

仮説Ｂ：青梅新町開拓における人々の生活の様子や苦労，又，吉野織部之助の計画的な村づくりについて調べるという課題を解決する活動を通して，成就感が得られ，自ら学ぶ力が養われるであろう。

4　地域の様子

本校は青梅市の東端に位置し埼玉県との境にある。周囲には田や畑が点在し，背後には七国丘陵といった小高い山々もあり自然環境にはたいへん恵まれている。加治丘陵と武蔵野台地の間にあり，霞川によって形勢された沖積平野である。縄文期から先人が居住し，中世には，今井氏，藤橋氏が居城した。七国峠，七日市場の地名に往時が偲ばれる。

近年，農業地域から住宅地へと変貌しつつある。本校は，市の１６番目の学校として開校１８年目を迎える。保護者，地域住民は，地域の発展や教育に対する関心や連帯感が極めて旺盛である。自分たちの学校という意識も強く，学校教育に対し大変協力的である。

5　児童の様子

豊かな自然環境のもと，児童は伸び伸びと学校生活を送っている。全校児童数５１７名である。児童は穏和である。家庭の教育的関心も高い。

しかし，自分から主体的に何かをやろうという意欲に乏しい面もある。これは学校規模にかかわらず，今の児童全般に見られる傾向であるように思われる。

学級の児童はたいへん明るく，男女の仲も良い。授業での発言は活発で，反応は素晴らしいものがある。塾通いや習い事（サッカー・剣道・習字・ピアノ）をする児童も多く忙しい日々を送っている。

青梅に住んでいながら地域の自然や歴史について知らない児童も大変多い。

6　教師の願い

(1)　地域素材を活用し体験的な学習活動を展開することにより児童の興味・関心を増し自ら学ぼうとする意欲を高めさせたい。

(2)　郷土青梅の学習により自分たちの住む郷土を愛する心を子供たちの中に育てたい。

(3)　地域教材の学習をすることにより地域の活動に主体的に参加し，地域発展のための活動を余暇を通して行っていこうとする態度を育てたい。

(4)　児童は与えられたことはやるが，自分たちで問題を見つけ出し主体的に解決していこうとするバイタリテイーはあまり見られない。主体的に学んでいく力を身に付けさせることはへき地校，都市部の学校を問わず今日の教育課題の一つであるように思われる。

7　単元の指導計画における仮説と評価

	指　導　計　画	各段階における仮説	評　価
つかむ	新町を開いた人々の苦労や工夫を調べるための学習課題をつかむ。 玉川上水完成前に武蔵野台地の西に新町が開かれていたがそれはどのあたりにだれが作ったのだろう。 ①航空写真を使って開拓当時の新町の様子を予想する。 ②③④⑤青梅街道の昔調べをする。 ⑥見学したことを発表する。	スライド・写真を使用したことにより調べてみようとする意欲が高まる。 青梅街道昔調べの体験学習を通して学習への興味関心が高まるであろう。	①関心 ②③④⑤意欲 ⑥思考力
追求する	聞き取り学習により地域の開発に携わった人々の苦労や吉野織部之助の計画的な村づくりを理解する。 水のなかった新町の人々は水を得るためにどんな努力をし，赤土混じりの風から家や畑を守るためにどんな工夫をしたのか。	聞き取り学習という体験活動を通して学習課題に対して意欲をもって取り組み，課題を解決しようとするであろう。	⑦意欲・思考力・判断

追求する	⑦見学して，発見，疑問に思ったことをもとに学習課題を作り，自分たちの予想を考える。 ⑧舘先生の話しを聞く中で新町開拓の様子，吉野織部之助の計画的な村づくりを理解する。（本時）	舘先生に話しを聞くという体験を通し興味関心を増し，自ら進んで学ぼうとする意欲が高まるであろう。	⑧関心・意欲・態度
まとめる	⑨⑩これまでの学習を新聞にまとめ工夫された村づくりについて感想を発表する。	新町開拓に携わった人々の苦労や工夫を理解することにより自分たちの住む青梅をさらに知ろうとする意欲が高まるであろう。	⑨⑩資料活用 知識・理解 思考力

※舘先生…舘盛光氏（元青梅市教育委員長）は，長年にわたり青梅の郷土史について研究され，新町の開拓について詳しい方である。

8　本時の学習指導

(1)　本時の位置　8時間目

(2)　本時の目標

舘先生からの聞き取りを通して，見学だけでは理解できなかったことや新町開拓の概要をとらえることができる。

(3)　本時の授業仮説

ア　聞き取り学習という体験的な活動を展開することにより，学習への興味・関心が増し意欲をもって学習しようとする態度が育つであろう。

イ　新町開拓における人々がどのような苦労や村づくりの工夫をしたのかという課題を解決する活動を通して，成就感が得られ，自ら学ぶ力が養われるであろう。

(4)　本時の展開　第4学年（男子１４名　女子１７名）

	学　習　活　動	教師の支援	評　価
導入	前時に出された各班の学習課題を発表し，その課題に対する子供たちの予想を発表する。 ・発表の仕方と発表を聞く際の心構えを確認する。	発表の仕方や話しの聞き方の助言 黒板に各班の課題と予想を貼る。	課題と自分たちの予想を確認することにより，聞き取り学習に対する意欲をもって取り組んでいる。

		1班～6班の順番で発表させる。	
展開	舘先生からお話を聞く。 ・各班ごとに質問をする。 ・質疑応答 ・新たに疑問に思ったことや聞きたいことがあれば質問する。	聞き取りカードの記録の取り方について助言 1～6班の順番で質問させる。 個人での発表を指示する	興味・関心をもって聞き取り学習に参加できたか。 聞き取り学習により課題を解決し成就感が得られたか。
まとめ	感想を書く。		

(5) 成果と課題

身近な地域の素材を利用した授業では子供たちはたくさんの質問をしたり興味をもって学習に取り組もうとする。地域に住む人々も学習には協力的である。今回の学習では新町開拓の苦労や工夫，吉野織部之助の計画的な村づくりを地区の見学や地域に住む人からの聞き取り学習を取り入れ児童が地域に関わりをもてるように計画した。児童が「地域の発展に尽くした人」を興味・関心をもって学習し具体的に理解していくために自分たちの郷土・青梅を舞台にした教材は効果的であった。

青梅街道昔調べの見学では友だち同士が教え合いながら学習することの楽しさを知り，予想以上の発見があいついだ。又，見学における新たな疑問をもとに児童は主体的に意欲をもって学習に取り組んでいた。

しかし，本校は新町からかなり離れており，実際に現地に行って調べるという調査学習を十分に行えない現状もあった。そのような理由から舘先生を学校に招き，聞き取り学習を計画したが，舘先生から聞き取り学習においても児童自らが課題を設定し，その課題を解決をするために主体的に取り組んでいた。児童は自ら課題を見つけ，それを聞き取りという体験学習を通し解決していく中で成就感を得て，自ら学ぶ力が養われたと思われる。

児童は，見たり，聞いたりといった具体的な活動が大好きである。地域素材を媒介に，生活を介して学ばせると，児童のエネルギーは素晴らしい力となってあらわれてくることが分かった。このことからも身近な地域教材の開発はぜひとも必要であるように思われた。

又，今回の授業から，郷土の知識に詳しい方のお話などをビデオに収録し，どの学校でもそれを使い間接的な体験学習が組めるようにデーターバンク化しおくこともこれからの地域学習にとって大切なことが分かった。

＜検証事例・その５＞

1　事例名　新島の砂浜の砂等を観察する体験的な活動を通して，
地域の自然に関心をもち，自ら学ぶ力を育てる指導の工夫
中学校　第３学年　理科

2　小単元名と目標

(1)　小単元名　「火をふく大地」

(2)　小単元の目標

ア　火山の形や火成岩の特徴に関心をもち，進んで調べようとする。

イ　火山の形をマグマの粘性から推論したり，火成岩の種類を組織や成分から推論したりする。

ウ　砂を観察し，いくつかの特徴ある粒（鉱物）を見いだしたり，火成岩を観察し，資料との比較により分類したりする。

エ　火成岩の種類や特徴（組織や成分）を説明できるようにする。

3　小単元を通した授業仮説

仮説Ａ：大島や新島の火山の形や砂浜の砂他の地域素材を用い，観察等の体験的な学習活動を展開することにより，生徒の興味関心が増し，自ら進んで学ぼうとする意欲が高まるであろう。

仮説Ｂ：島によって火山の形が違うことや，新島本村と若郷で砂浜の砂の色が違うこと等の課題を解決する活動を通して，成就感が得られ，自ら学ぶ力が養われるであろう。

4　地域の様子

新島には定期船の港のある本村地区と，そこから８㎞北にある若郷地区との２つの集落がある。本村地区にある砂浜（本村前浜）と若郷地区にある砂浜（若郷前浜）では砂の色がまったく違う。本村前浜は白い砂浜であり，若郷前浜は黒い砂浜である。これは，おのおのの土地をつくった火山が違うためであるといえる。本村地区は流紋岩質の火山（向山）若郷地区は玄武岩質の火山（若郷火山）による噴出物でできたと言われている。

5　生徒の実態

海や山に囲まれ，自然環境に恵まれている新島ではあるが，その環境が当たり前になってしまい，改めて見なおすことはあまりないといえる。学校外の生活では習いごと（塾，柔道剣道，空手，書道など）や屋内の遊びが多く，自然と接する機会は少ない。

6　教師の願い

普段改めて見直すことの少ない新島の自然を再認識させたいと思い，火山の噴火や噴出物について学ぶ時に，新島の火山や岩石を題材にして行おうと考えた。さらに，学校外の生活時間が拡大している今，積極的に新島の自然や文化と接してもらいたい。そして，新島の自然と接した時に新たな目で自然を見，自然に触れることができるようになってもらいたいと思っている。

7　小単元学習指導計画における仮説と評価

学習内容	・マグマの粘性の違いから火山の形の違いができることを学ぶ。 ・新島の火山がどのようにしてできたかを学ぶ。　（第１時）
仮説	仮説Ａ：大島，新島，神津島他の火山のＶＴＲ。 仮説Ｂ：なぜ島によって火山の形が違うのであろうか。
評価	・新島の自然をあらためて見ることに興味をもったか。 ・マグマの粘性により火山の形が違うことを理解しているか。

→

学習内容	・砂のでき方について知る。 ・新島本村と若郷で砂の色が違うのは，それぞれをつくった火山が違うことを学ぶ。（第２時・本時）
仮説	仮説Ａ：新島本村の浜の砂，若郷の浜の砂。 仮説Ｂ：なぜ新島本村と若郷では砂の色が違うのであろうか
評価	・砂の色の違いを調べる調べ方に気付いたか。 ・砂の色が違うのは，火山噴出物の鉱物が違うことを理解しているか

↓

学習内容	各時の仮説	各時の評価
・火成岩の組織と成分について学ぶ。（第３時）	仮説Ａ：新島本村及び若郷で採れる火成岩抗火石	・火成岩を進んで調べたか。 ・火成岩の組織と成分について理解したか。
・火成岩を組織と成分を基準にして分類する。（第４時）	仮説Ｂ：火成岩を観察して６種類に分類しよう。	・６種類の火成岩を分類したか
・学習してきた内容を整理する。　（第５時）	仮説Ｂ：火成岩についての質問に答えよう。	・質問（問題）に対して適切に答えたか。

8　本時の学習指導

(1)　本時の位置

小単元　「火をふく大地」の２時間目

(2)　本時の目標

ア　新島本村と若郷の砂の違いについて進んで調べる。

イ　砂の色の違いを調べる方法に気付く。

ウ　砂のでき方や砂が違うのは火山噴出物が違う等が分かる。

(3)　本時の授業仮説

ア　新島の本村と若郷の砂を採ってきて観察する等の体験的な学習活動を展開することにより，生徒の興味・関心が増し，自ら進んで学ぼうとする意欲が高まるであろう。

イ　新島の本村と若郷の砂の色がなぜ違うかという課題を解決する活動を通して，成就感が得られ，自ら学ぶ力が養われるであろう。

(4)　本時の展開

☆教材，◆ヒント，●まとめ　　第３学年（男子１８名，女子１７名）

	学習活動　☆教材	教師の支援及び留意点	評価項目
導入 5 分	・ビデオを見て，砂の色の違いに気付き，疑問に思う。 ☆ＶＴＲ	・本村の浜と若郷の浜のＶＴＲを見せ，砂の色の違いに気付かせる。 ・同じ新島という１つの島なのになぜ違うのか。疑問をもたせる。	・砂の色の違いに気付き疑問をもったか。
展開 1 考える 15 分	【課題：本村の砂の色と若郷の砂の色はなぜ違うのか】 ・予想を立て，プリントに記入する。 ・予想を発表する。 ☆プリント１（予想欄）	・机間指導をしながら，色々な見方から予想した生徒を指名し，発表させる。 ◆なぜ違うかを調べるためには，まずどのように違うかを明らかにする必要性がある。	・進んで予想を立てたか
	【本村の白い砂と若郷の黒い砂はどのように違うのか】 ・調べ方を考え，プリントに記入する。 ・有色の砂と無色（白・透明）の砂粒に分け，粒の色や量の違いを比べればよいことに気付く。 ・調べ方を発表する。 ☆プリント，（調べ方欄）	・どのように違うのか調べる調べ方を考えさせる。 ◆大きく見れば白い砂と黒い砂で違うが共通する粒は何か？ ◆砂を白く見せている粒はどれか？ ◆同じ砂粒があっても大きく見ると黒や白にみえるのは何が違うからか？	・進んで調べ方を考えたか。 ・砂の色の違いを調べる調べ方に気付いたか。
展開 2 観察	・有色と無色の砂粒に分ける。 ☆ピンセット，ルーペ，紙 ・分けた砂の量の割合がおよそ何対何か考える。	・砂粒が大きい本村前浜と若郷前浜の砂を用いて行う。 ・１班あたり小さじ１杯ぐらいの量を用いて行う。 ・１人１枚の紙の上で行なわせる。	・進んで砂粒を分け，プリントをまとめようとしたか。

する 17分	・岩石と鉱物についてプリントを読む。 ☆プリント2	・共通する砂粒が，石英と長石であることに気付かせる。 ●砂を白く見せているのは，石英である若郷の砂にも石英が含まれるが，その量が違い，全体の色が違ってくる。	・砂粒を分けいくつかの鉱物を見いだせたか。
まとめ 13分	「なぜ本村と若郷の砂では含まれる鉱物の種類や量が違うのか」 （「砂浜の砂はどのようにしてできたのか」） ・演示実験を見る。 ☆水槽，シャーレ，茶こし ・水ですすいで残ったものを班ごとに観察する。 ・新島の大地が風雨にさらされ，削られ，残ったものが浜の砂になったことに気付く。 ☆プリント（まとめ欄） ＜教師の話を聞く＞ ・新島は火山でできた島であるので火山の噴出物で大地ができている ・砂が違うということは，火山が違うことである。 ・噴出物が違うということは，火山が違うことである。 ・本村と若郷はそれぞれ違った火山によりできたといえる。	・本村から採ってきた土を水でさらい，茶こしでこし，残ったものが本村の浜の砂であることに気付くよう解説する。 ●砂浜の砂は近くの土が風雨にさらされて流れ出て，海の波にさらされて残ったものである。 ●本村と若郷では大地をつくっている土がまったく違ったものである。	・進んで観察しようとしたか。 ・新島の砂浜の砂のでき方が理解している。 ・本村と若郷の砂の色が違うのは，それをつくっている火山が違うということが分かる。

(5) 成果と課題

ア 授業の評価と生徒の変容

・本村と若郷の砂の違いについて，生徒一人一人が様々な予想を立てることができた。

・砂粒を分けたり，いくつかの鉱物を見いだしたりすることを進んで行なうことができた。

・予想を班ごとに話し合わせるなどして深く考えさせたり，実際の結果との違いを明確にさせたりする時間をとるべきだった。

イ まとめと課題

・自らの手で採ってきた砂を教材に使うことにより，関心が高まり，進んで学習できたといえる。（仮説Aは立証された）

・課題のねらいはよかったが，予想や調べ方の話し合いにもっと時間をかけるべきであった。さらに教材提示等を工夫改善し，課題解決を行なえば，より成就感が得られたと思われる。この課題は2時間扱いが適当であった。（仮説Bは立証される可能性が高い）

・一人一人が自ら学ぶ力を高めるためには，予想したり，調べ方を考えたりする活動を重視する必要がある。それが学校外で自然に触れたとき，いろいろな見方ができ，自ら働きかける力へとつながると思われる。

Ⅵ　研究のまとめと今後の課題

本研究部会では，地域の特性，児童・生徒の実態等について共通理解を図った上で，研究主題を「体験的な活動を生かし，一人一人の児童・生徒が自ら学ぶ力を育てる指導の工夫」とした。そこで，研究主題に迫るために次の２つの仮説を設定した。

＜仮説Ａ＞地域素材や身近な素材を活用し，体験的な学習活動を展開することにより，児童・生徒の興味・関心も増し，自ら進んで学ぼうとする意欲が高まるであろう。

＜仮説Ｂ＞主体的に課題に取り組む学習活動を工夫し，児童・生徒が自ら課題を解決することにより，成就感が得られ，自ら学ぶ力が養われるであろう。

上記仮説に基づいて，検証授業を行った。その結果，次の成果を得ることができた。

1　研究の成果について

(1)　生徒の自己評価カードの中に「授業がとても楽しかった・・」とあるように意欲や関心の高まりを示しており，地域の再発見について高く評価している。（検証事例１・中１社会）

(2)　自作プリントの作成や視聴覚機器を使った実物の提示など，各グループが創意工夫を凝らしながら多様な学習発表ができた。（検証事例２・小６家庭）

(3)　ビデオレターという体験的な活動は，児童の興味・関心を大いに引き出した。また，分校ではふだん聞くことができない同学年の児童の意見を聞くことができ，読みを深めるという課題にも主体的に取り組むことができた。（検証事例３・小２国語）

(4)　「地域の発展に尽くした人」では，自分達の郷土・青梅を舞台にした教材は効果的であった。実際に現地に行って調べるという調査活動を十分に行えない現状もあったが，児童は，自ら課題を見つけ，それを聞き取りという体験学習を通し解決して行く中で，成就感を得て，自ら学ぶ力が養われた。（検証事例４・小４社会）

(5)　自ら手で探ってきた砂を教材に使うことにより，関心・意欲が高まり，進んで学習できたと言える。（検証事例５・中３理科）

研究の結果，検証事例を通しても分かるように，児童・生徒は「体験的な学習」「問題解決的な学習」を展開することにより，自ら学ぶ力を培うことができた。

2　今後の課題について

(1)　個々の生徒の創意を生かしたビデオ，実物投影機，プリントなどを活用して，多様な発表スタイルに発展させるための教師の支援の在り方をさらに工夫する必要がある。

(2)　予想したり，調べ方を考えたりする活動を重視する必要がある。それが学校外で自然に触れたとき，いろいろな見方ができ，自らに働きかける力へとつながるであろう。

(3)　ビデオレターの実践については，一層の成果を挙げるために，ビデオレターの交換を継続していくことが必要である。そのために相手の学校とどういう体制を作っていけばよいのかを工夫する必要がある。

(4)　郷土に詳しい方の話などをビデオ等に収録し，どの学校でもそれを使い間接的な体験学習が組めるようにデーターバンク化することを更に研究する必要がある。